

環境

「環境先進大学としての取組」【P9左(1)】

- 全国の大学初として採択された「三重大学スマートキャンパス実証事業」（平成23年10月～平成26年3月）の継続実施（次年度も「スマートキャンパス」として事業継続）
- 「三重大学ブランドの環境人財」の育成
- 環境ISO学生委員会が中心となり3R活動の実施
- 環境教育実践「MIEUポイント」（「個人の努力」を「見える化」する環境ポイント付与制度）の授業開設



- ◇創エネ、蓄エネ、省エネにより意識をかえ、再生可能エネルギー（太陽光発電設備、風力発電設備）、蓄電池設備、ガスコージェネ発電設備等の稼働による、CO2排出量19%（H22年度比）4,420tの削減効果
- ◇「持続発展教育（ESD）プログラム」による、プログラム修了証書の付与
 - ・平成25年度の入学在籍者に対する修了者数：376名
- ◇レジ袋削減のため新生へエコバックの配布、放置自転車・家電の回収と新生及び留学生への譲渡、古紙回収、ISO14001の取得やゴミの分別方法等についての説明の実施
- ◇年間5回（内2回はAQUA SOCIAL FES!!（トヨタ自動車）との協働）の大学に隣接する町屋海岸での住民、行政、企業など産官学民との連携による清掃活動
 - ・1,007名の参加とゴミの回収（204袋）
- ◇「MIEUポイント」活動を実践し、その成果を分析し、システムの改善や拡張を考察することによる環境マインドの向上
 - ・活動登録者数：753名（前年度107名）
- ◇実績等による外部評価
 - ・「第5回エコ大学ランキング」総合第1位（2回目の受賞）
 - ・「第14回中部の未来創造大賞」優秀賞及び特別賞（中日新聞社賞）受賞
 - ・「三重大学環境報告書2013」が第17回環境コミュニケーション大賞「報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞を受賞（5回目の受賞）

| 導入システムとCO2削減 | CO2削減量（t-CO2/年） H25年度実績値 |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 再生可能エネルギー （太陽光、風力） | 190 |
| ガスエンジンコージェネレーション （ボイラ燃料転換含む） | 4,064 |
| クールビズ空調 （ガスヒートポンプ→デシカント空調） | 166 |
| CO2削減量（合計） | 4,420 |
| CO2削減率：H22年度比較 | 19.4% |

※H22年度CO2排出量 22,777t-CO2/年



三重の力を世界へ

平成25年度(2013)の実績・その1
— 業務運営・財務内容等の状況編 —

学長ガバナンス

学長のリーダーシップによる取組【P10、P15左①右③、P26左①】

- 学長ガバナンス機能強化に向けた理事、副学長の権限及び責任の明確化教授会を介さず施設長（理事・副学長）が学内共同教育研究施設等を直接指揮
- 各部署と本部組織との一体的かつ機能的な運営体制
- 大学の機能強化に向け、研究において学部横断的、国際的教育研究センターを中心とした包括的な推進、環境研究での集約化を進める
- 地域イノベーション学研究科が使用していた全学共用スペースの運用
- 年俸制適用の更なる推進への検討



- ◇学内共同教育研究施設等教授会の廃止（H26.4.1）
- ◇課題解決に向けて全学的に取り組むための大学執行部と学部長・研究科長を構成員とする大学運営検討会議を設置し、平成26年4月より毎月開催することを決定
- ◇「バイオエンジニアリング国際教育研究センター」、「国際環境教育研究センター」の設置等、更なる発展を検討
- ◇地域イノベーション学研究科が使用していた全学共用スペースを学長の裁量で機動的に使用できるスペースとして運用できるための規程改正
- ◇年俸制適用教員数（H24：63人→H25：76人）

総合防災訓練

学内防災力向上に向けた取組【P26左②】

- 南海トラフを震源域とする巨大地震を想定した総合防災訓練の実施
- 新生、留学生への防災に対する講習会等
- 災害時（有事）における備品等の整備



- ◇総合防災訓練
 - ・9月3日：図上訓練を中心とした、全学一体的な訓練実施
 - ・12月10日
学内における津波避難訓練：（学生・教職員8,000名の参加）
野外病院開設訓練実施：（本学附属病院及び三重県の学外機関等総勢約150名の参加）
- ・本学新生オリエンテーションに防災に関するプログラムを設定
- ・留学生のための防災講習会「Emergency Response for Disaster（災害時における緊急対応）」を開催
- ・マンホール対応簡易トイレ10台、学内40カ所のエレベーター内への備蓄BOXの設置

男女共同参画

男女共同参画への取組【P15右④】

- 全学組織の専門委員会の構築・運営、男女共同参画授業の推進、行政や企業との連携による男女共同参画事業を積極的に推進



- ◇「男女がいきいきと働いている企業」認証を取得、三重県知事表彰「グッドプラクティス賞」受賞
- ◇本学の女性教員の比率：15%、女性職員の比率：63%（執行部に1名、事務部の課長以上の職に4名の女性を登用）
- ◇「三重大学男女共同参画推進学生委員会」の設置
- ◇「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の作成、配布

法令遵守

公的研究費の不正使用防止・研究不正等の再発防止に向けた取組【P26右③】

- 研究に関する研修会の実施
- 固定資産の定期監査、機器類の現物確認及び管理状況確認の実施



- ◇「研究に関する研修会」
10月と3月に計3回開催：研究不正防止と研究行動規範、公的研究費の適正な使用、寄附金の適正な受入、知的財産の取扱と利益相反等のリスクマネジメント（安全保障貿易管理を含む）、コンピュータ・ネットワークの適正利用、臨床研究における不正防止等の事項について説明、「公的研究費の適正な使用のために」「キャンパスネットワーク利用ガイドライン」（新規作成）等のパンフレットの配付
- ◇三重大学研究行動規範の改正作業の開始

経費削減

経費削減に向けた取組【P19左①】

- 建物の改修工事にあわせて省エネルギー効果の高い機器の導入
- 統合地ボイラーの廃止
- リバースオークション入札方式の試験の実施
- 「複合機最適運用支援サービス」のより高い競争性を確保し、経費削減を図るため、必要項目を最低限にするなどの仕様内容の見直し



- ◇今後、ボイラー運転監視業務費・燃料費等年間約26,000千円削減
- ◇リバースオークション入札方式による一定のコスト削減実績
 - ・35件、350万円
- ◇「複合機最適運用支援サービス」の仕様内容の見直しによる削減見込
 - ・削減見込年額52,183千円、5年間で260,000千円

研究

研究活動の活性化と若手研究者育成に向けた取組【P5右(7)】

- 「三重大学COEプロジェクト研究」を発展させ、新たな研究支援事業として、独自の・先駆的研究拠点形成支援事業、研究カステップアップ支援事業を実施
- 国際共同研究の新たな推進方策として、国際研究推進支援事業を新設
- 若手研究者の育成を目指した「若手研究プロジェクト」、「若手研究者の海外研修支援制度」を実施



- ◇独自の・先駆的研究拠点形成支援事業：3件、450万円
- ◇研究カステップアップ支援事業：3件、300万円
- ◇国際研究推進支援事業
 - ・科学研究費補助金基盤研究(A)、(B)(海外学術調査)を獲得するために2件、200万円支援
 - ・外国企業との共同研究件数：4件
- ◇若手研究プロジェクト：17件、850万円支援
- ◇若手研究者の海外研修支援制度
 - ・42名(教員14名、学生28名)へ海外渡航費用等を支援

知の支援

知の拠点施設活用等の推進【P6左(9)】

- 附属図書館機能の充実
- 保有資産の地域文化向上に向けた有効活用



- ◇「研究支援機能」、「学習・教育支援機能」、「地域貢献機能」の3つの機能の充実
- ◇三重県総合博物館との相互協力協定の締結
- ◇環境・情報科学館及び、登録有形文化財であるレーモンドホール、三翠会館において本学の芸術や文化などの成果発表及び地域の文化向上へ向け、「三重大学ミュージアム構想WG」を設置し、活用方法について検討を開始

社会との連携

地域防災事業の推進【P6左(10)】

- 文部科学省科学技術戦略推進費(旧・振興調整費)による「美し国おこし・三重さきもり塾」の事業の終了にともなう同事業の継続
- 「三重県・三重大学みえ防災・減災センター」の設置に向けた協定締結
- 「東海圏減災研究コンソーシアム」において6部会を設けて研究を開始



- ◇三重県からの受託事業「防災関連人材活動強化事業」、「地域防災企業力活用事業」の展開
- ◇「三重さきもり塾」は定員の40名に対し、52名(特別課程生12名、入門コース生40名)が卒業
- ◇文部科学省より「南海トラフ巨大地震克服のための大学力を結集した東海圏減災プロジェクト-三重県地域における人的資源の活用と支援の仕組みに関する研究-」について支援



三重の力を世界へ

平成25年度(2013)の実績・その2

— “教育研究等の質の向上”に係る状況編 —

教育

「教養教育機構」の設置及び、PBL型初年次教育「『4つの力』スタートアップセミナー」推進の取組【P4左(1)(2)】

- 新しい教養教育とその実施組織の構築
- 学習動機付けと、初年次段階での学習スキルの獲得を目指すPBL型初年次教育プログラム「『4つの力』スタートアップセミナー」の全学的開講



- ◇新教養教育カリキュラムの骨子、15名の専任教員による全学体制組織の設置(H26.4.1設置)に伴う準備
- ◇学士課程：416、大学院課程：174 計590の講義や演習をPBL形式(またはPBLの要素を含む形式)として開講(全学の約14%)
- ◇PBL形式による授業の成果を公開
 - ・「4つの力 スタートアップセミナー」のプロジェクト発表会(約1,270名参加)
 - ・PBLセミナー共通教育全体発表会(前期約240名、後期約40名参加)

e-ラーニングシステム「三重大学Moodle」を使った教育活動の推進【P5左(5)】

- 三重大学Moodle(ムードル)
 - ・ネット上での講義資料配付、レポート提出、オンラインテスト・自動採点、学生同士のオンラインディスカッション、アンケートなどが可能な、仮想教室とも言うべきe-ラーニングシステム
- スマートフォン対応のMoodle2の本格運用を開始



- ◇授業やプロジェクトなど、約2,000のコース開設
- ユーザ数：学生約7,200名(教職員約1,300名)
- 電子ファイルのアップロード数：計43万ファイル以上
- アクセス数：ページビュー単位で約700万アクセス

学生支援方針に従った組織的學生支援機能の充実化【P5左(6)】

- 障がい学生支援への取組・就職支援への取組・留学生支援への取組



- ◇民間金融機関からの長期借入を行い、新たに外国人留学生寄宿舎を整備
- ◇「インターンシップガイドブック」、「三重大学オリジナル就職活動手帳(キャリアハンドブック)」の作成、インターンシップ実施に向けた事前研修会・説明会(参加人数295人)の開催、県内外の企業・団体等539社の参加により、5日間の日程での学内企業研究会(参加人数延べ4,000人)の開催
- ◇寄附事業による本学独自の奨学制度により4名の外国人留学生に奨学金を支給、三重大学国際交流特別奨学生制度により海外協定大学の留学生

国際化

国際化に向けた取組【P6右(11)】

【全学的な国際交流活動】

- 名古屋大学、愛知教育大学との3大学間連携による国立大学改革強化推進事業「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」への取組
- 3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムの本学での開催及びび学生・教職員の参加(8カ国20大学から117名の教職員と学生参加)
- 国際交流週間2013による多様なイベントの実施
- アジア諸国における国際交流協定大学との国際インターンシップの推進
- 平成25年度JICA集団研修「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」の実施等
- 国際医療支援センターの設置による医療支援体制の構築



◇名古屋大学、愛知教育大学との3大学間連携による国立大学改革強化推進事業

- ・多言語によるリアルタイムの教育情報発信システム、テレビ会議システム、電子黒板システムの導入
- ・JICAとの人事交流による同機構からの准教授1名の採用

◇「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」

- ・コンゴ民主共和国から1名の研修員受入

◇JICA・PEACEプロジェクト

- ・アフガニスタンから2名の研修員を受入

◇国際医療支援センターにおいて外国人医師・コメディカルスタッフの受入れ、医療器材供与などの医療支援など積極的に実施する計画

◇学内国際化の推進

- ・協定校数(H24：79大学 → H25：85大学)
- ・外国人教員数(常勤教員・特任(教育)教員数 H24：14人 → H25：16人)
- ・留学生数(H24：251人 → H25：278人)

附属病院

附属病院取組【P7左(12)】

- 効率的な病床稼働、手術枠の見直し等による病院全体稼働額の増加
- 本学を中心に地域医療活性化の基礎的教育研究システムを構築し、地域医療のシンクタンクである地域医療学講座を設置
- 津地区救急医療体制の充実
- 小児科入院患者の家族が滞在できる家族向けの滞在施設「ハーモニーハウス(仮称)」を独自に建設、運営を決定



◇対前年度比較：約10億円の増(病院全体稼働額)

◇ICT(情報通信技術)を使用した救急搬送システムの構築

◇フライトナース1名の増員

教育

学生支援

研究

業務運営等

- 学士課程：416、大学院課程：174 計590の講義や演習をPBL形式で開講
- スマートフォン対応の「Moodle2」の本格運用を開始

- 障がいのある学生支援として、バリアフリー対策を実施
- 三重大学オリジナル就職活動手帳「就活キャリアハンドブック」の作成

- 「三重大学COEプロジェクト研究」を発展させ、独自の・先駆的研究拠点形成支援事業(3件450万円)、研究カステップアップ支援事業(3件300万円)の採択
- 若手研究者の異分野融合を促すため、学内サイエンスカフェを開催(4回開催、参加者合計162名)

- 全教職員を対象とした「研究に関する研修会」計3回開催
 - ・ 研究不正防止と研究行動規範等
- 「公的研究費の適正な執行に係る研修会」
 - ・ 各部署ごとに実施

リーダーシップ
ガバナンス

- 「教養教育機構」新教養教育カリキュラムの骨子と、15名の専任教員による全学体制からなる教養教育機構の設置を決定

- 民間金融機関からの長期借入を行い、新たに外国人留学生寄宿舎整備を決定

- 「バイオエンジニアリング国際教育研究センター」の設置
 - 学際的コラボ・国際的コラボによる研究と教育を推進するためのに向けた準備を実施
- 「国際環境教育研究センター」の設置
 - 環境管理推進センターを環境管理と保全業務を統合する改組を行い、更に発展させるための検討を実施

- 大学運営検討会議の設置
 - 大学の課題について全学的に取り組む組織(執行部、学部長・研究科長により構成)
- 学内共同教育研究施設等教授会の廃止を決定
 - 理事、副学長が教授会を介さずに当施設を直接指揮できるようにし、その権限及び責任を明確化
- 年俸制の推進(H24:63人→H25:76人)
- スペースマネジメント
 - 地域イノベーション学研究科が使用していた全学共用スペースを、学長の裁量で機動的に運用できるための規程改正実施

地域・防災

- 地域の中心的な教員養成機関として、教育学部の改組を行い、平成26年4月からの入学定員の見直しを実施。
- 附属図書館の「研究支援機能」「学習・教育支援機能」「地域貢献機能」の3つの機能の充実
- 「三重大学ミュージアム構想WG」設置
 - 芸術や文化などの成果発表及び地域の文化向上に向け、環境・情報科学館及び、登録有形文化財であるレーモンドホール、三翠会館の活用法を検討

- 新入生オリエンテーションにおける防災に関するプログラムの実施
- 留学生のための防災講習会の開催

- 三重県との連携事業：「みえライフイノベーションヘルスケア産業創出ネットワーク形成事業」への取組(本学が拠点)
- MIE経営者育成道場の開講
- 地域活性化に取り組む県内農村地域団体の育成

- 「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」の設置
 - 三重県と三重大学が連携・協力し、三重県における地域防災力の向上を目指す
- 総合防災訓練を2回実施
 - ・ 1回目：9月3日、全学一体的な訓練の実施
 - ・ 2回目：12月10日、学内津波避難訓練、野外病院開設等の訓練の実施
- 男女共同参画事業
 - 三重県認証製度取得及び、三重県知事表彰受賞
 - 「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」作成

環境

- 環境教育実践(MIEUポイント)(個人の努力を「見える化」する環境ポイント付与制度)の授業科目開設、及び全学的実施(学生・教職員：753名)
- ユネスコスクール研修会/シンポジウム2013開催
- 「持続発展教育(ESD)プログラム」を実施、学長より「持続発展教育(ESD)プログラム修了証書」を付与(376名)
- 持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界パートナーシップ事業「ESD in 三重2014」を企画

- 3R活動
 - ・ レジ袋削減のため新入生へのエコバックの配布
 - ・ 放置自転車(再利用可能な自転車は修理を行った。)、家電の回収と新入生及び留学生への譲渡
 - ・ 古紙のトイレトーパー化によるリサイクル

- 「三重大学スマートキャンパス実証事業」(平成23年10月~平成26年3月)を行い、創エネ、蓄エネ、省エネにより意識をかえ、再生可能エネルギー(太陽光発電設備、風力発電設備)、蓄電池設備、ガスコージェネ発電設備等が稼働(CO2:19%削減)

- 年間5回(内2回はAQUA SOCIAL FES!!(トヨタ自動車)との協働)の大学に隣接する町屋海岸での産官学民との連携による清掃を実施
- 「第5回エコ大学ランキング」総合第1位受賞(2回目の受賞)
- 「第14回中部の未来創造大賞」において優秀賞及び特別賞(中日新聞社賞)受賞
- 「三重大学環境報告書2013」が第17回環境コミュニケーション大賞
- 「報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞を受賞(5回目の受賞)

国際

- 3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムの三重大学の当番校による開催(第20回)
- 海外在住の講師による、インターネットを用いた英語での大学院セミナーの定期的開講
- 「世界に通用する高度専門産業人材養成のための大学院教育改革」プログラムにより第3回国際シンポジウムを開催し、修士学生による英語論文の発表

- 寄附事業による本学独自の奨学制度により外国人留学生に奨学金を支給(4名)
- 三重大学国際交流特別奨学生制度により海外協定大学の留学生への支援(59名:月2万円)
- 国際インターンシップの実施

- 国際研究推進支援事業を新設し、科学研究費補助金基盤研究(A)、(B)(海外学術調査)獲得を支援
- 研究プロジェクトにより、若手研究者の海外における研究活動を支援(17名)
- 「若手研究者の海外研修支援制度」により、若手研究者・学生の国際学会等参加を支援(42名:教員14名・学生28名)

- 「外国人教員短期招へいプログラム」の平成26年度実施に向けた、実施要項の整備